

【質疑応答要旨】

【記者】 行政組織改正について、新型コロナウイルスワクチン接種推進室はどういった業務を想定しているのか、また、このタイミングで設置することで、何月ごろから接種に対応できるようになるのか。

【市】 高齢者の方は、国の想定では3月の下旬ごろから打ち始められるとの連絡があった。市としても出来るだけそれを目指して進めていきたいということで、組織をつくる。具体的にはシステムの開発や接種券の印刷、医療機関等との接種場所の調整などさまざまある。ワクチンがマイナス70から75度ぐらいの低温で運搬、保管するということもあり、その準備や接種場所も含めて対応していく必要があるため、早期に体制を整えた。期限については医師会などとも調整しながら、国の目標である今年の夏ごろまでにできるだけ行き渡るよう考えているが、具体的にはまだこれからとなる。

【記者】 新型コロナウイルスワクチン接種推進室には、人員は何人充てるのか。

【市】 まだ具体的に何名というところまでははっきりしていない。専任職員が必要だと思うが、たくさん張りつけられるほど人員に余裕はない。非常勤の職員や、繁忙期には他の部署から応援の職員を入れるなど、柔軟に対応したい。保健センターが一番近い業務をやっており、保健師などさまざまなスタッフがいるため、近いところに専任を置くことになるだろうと思っている。あとは医師会や市民病院など、医療関係者と連携をしっかりとしながら体制を組んでいく。

【記者】 新型コロナウイルス感染症について、小牧市も民間などでクラスターが出ているが、現状の認識とそれに対する対応を知りたい。また、春日井市民病院でクラスターが拡大し、救急救命センターを昨年末に閉じたりしていたが、これに関係して、同じ生活圏の小牧市、あるいは小牧市民病院で何か影響が出てい

ないか。

- 【 市 】 春日井市民病院が救急を一時止めたため、小牧市民病院の方の受け入れが一時的に増えたということは聞いているが、春日井の受け入れも再開しており大きな影響は出ていない。市全体では予断を許さない厳しい状況だと認識をしている。企業のクラスターがあったり、名古屋に次いで多い人数がカウントされたりというが10月にあったが、その後も年末に至るまで1日に10人を超える感染者数が報告されたこともあり、さらに拡大していくのではないかと心配をして推移を見守ってきた。少し落ち着いて数人、2人、3人、4人、5人というようなレベルでここ2週間来ており、そこまで小牧の中で急激に拡大しているという状況ではないと認識している。ただし、隣の春日井市が非常に多く、その影響はあるのではないかと心配をしている。注意深く推移を見ながら、市としてもしっかりと対応していく。万が一増えていくようなことがあれば、早急に国、県と連携して対応できるような体制をしっかりと心づもりしておくということが大事だろうと思う。